

研究課題名	イマチニブ投与中の進行消化管間質腫瘍に対する腫瘍減量手術の臨床的有用性を評価する国際多施設共同後方視的研究	
研究の意義・目的	転移性あるいは再発のGIST（消化管間質腫瘍）の主たる治療は薬物療法（イマチニブ、スニチニブ、レゴラフェニブ）として位置づけられています。一方、イマチニブによって腫瘍縮小効果が得られた患者さんにおいて、転移巣を切除する腫瘍減量手術の有効性が多数の研究において示唆されていますが、腫瘍減量手術を追加した場合の有用性は十分に解明されておりません。本研究では、イマチニブ治療を受けられた患者さんの診療情報を収集し、腫瘍減量手術の有用性について詳細な情報を取得することを目的としております。	
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2023年12月	
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2010年1月～2017年12月に大阪市立大学医学部附属病院の消化器外科科で、転移性あるいは再発の消化管間質腫瘍（GIST）に対してイマチニブによる治療を受けられた方が対象となります。	
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	患者情報（研究登録番号、年齢、性別）、疾患情報、治療情報、副作用の発生状況、病理組織学的診断（HE所見、免疫染色結果）等を用います。本研究では、腫瘍減量手術に関する治療情報とその転帰について重点的に情報を収集いたします。	
試料・情報の他機関への提供	特定の個人を識別できない形で、共同研究機関国立がん研究センター中央病院 消化管内科に頂いた情報を提供します。	
この研究を行っている共同研究機関	施設	各施設の研究責任者
	Renji Hospital, Shanghai Jiaotong University School of Medicine (中国)	Hui Cao
	Zhongshan Hospital, Fudan University (中国)	Kuntang Shen
	Shanghai Cancer Hospital, Fudan University (中国)	Ye Zhou
	Peking University Cancer Hospital (中国)	Jian Li
	The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University (中国)	Xinhua Zhang
	Union Hospital affiliated to Tongji Medical college of Huazhong University of Science and Technology (中国)	Kai-Xiong Tao
	Seoul National University Hospital (韓国)	Han-Kwang Yang
	National Institute of Cancer Research, National Health Research Institutes (台湾)	Li-Tzong Chen
	National Cheng Kung University Hospital (台湾)	Yan-Shen Shan
	地域医療機能推進機構 大阪病院 (日本)	西田 俊朗
	国立がん研究センター中央病院 (日本)	平野 秀和
	国立がん研究センター東病院 (日本)	内藤 陽一

	浜松医科大学医学部附属病院（日本）	菊池 寛利
	大阪大学医学部附属病院（日本）	高橋 剛
	大阪警察病院（日本）	中原 裕次郎
	静岡県立総合病院（日本）	佐藤 真輔
	北野病院（日本）	上田 修吾
	大阪市立大学医学部附属病院（日本）	豊川 貴弘
試料・情報を管理する責任者	地域医療機能推進機構 大阪病院 西田 俊朗 国立がん研究センター中央病院 平野 秀和 国立がん研究センター中央病院 本間 義崇 医療イノベーション推進センター 阪峯 基広	
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。	
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。	
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器外科学 （担当者氏名）豊川 貴弘 電話番号：(06) 6645-3838 メールアドレス：t-toyokawa@med.osaka-cu.ac.jp	